

学燈 *gakutou*



【第18号】

～実践研究中間発表会・成果報告会を開催しました～

【中間発表会 1年生】

中間発表会 教育実践開発コース（学部卒1年生）	
田村 香輝	カリキュラム・マネジメントの視点を重視したプログラミング教育の実践的研究
末廣 優樹	主体的に学習する子どもが育つ学習法 －確かな力を身につけるために－
杉山 隼一	運動の根源的な「楽しさ」を取り入れた体育授業の追求
矢次 慶子	関心・意欲・態度を引き出し、向上させる理科の授業づくり －理科に関心・意欲・態度が低下している生徒に焦点を当てて－
金田里佳子	児童の興味・関心を引きつけ、外国語（英語）を使いたくなる導入の仕方 －外国語の授業の効果的な工夫－
中間発表会 学校経営コース（現職教員1年生）	
川上 昌秀	学校における「協働」の再構築を通じた学校改善 －カリキュラム・マネジメントを手がかりにして－
能野 奈々	主体的な児童生徒の育成をめざす小中連携教育の推進 －教職大学院との連携・協働体制の構築を通して－
西村 幸子	旭地域の強みを生かした小中一貫教育の在り方 －グローバル人材の育成をめざしたカリキュラム・マネジメント－
楢山 慎也	学校教育目標実現に向けた校内研修プラン開発 －全教職員の参画による組織体制構築と人材育成をめざして－
米田 元輝	「町ぐるみ『和木学園』」の仕組みを生かした開発的生徒指導 －学校・地域・行政の連携・協働によるキャリア教育を柱に－
石井 兵文	地域・学校が一体となった「学園構想」の構築 －小中高12年間を見通した地域に開かれた持続可能なカリキュラムをめざして－
丸山 茂生	ICT活用による魅力ある学校づくり －これまでの教育実践とICTのベストミックスの確立をめざして－



中間発表会 特別支援教育コース（学部卒1年生・現職教員1年生）	
武田 顕子	教師と子どもの困りを未然に防ぐポジティブ行動支援の実践 －特別支援学級に在籍する発語がないと言われる児童への休憩時間を通じた第三層支援－
吉田奈々子	特別支援学校小学部児童の支払いスキルの形成に向けた課題分析に基づく指導
小野 誉史	自閉症スペクトラム障害のある生徒の学習及び生活行動の形成と自立に向けた支援 －実践の予備観察の分析を通して－
澤野 直美	子どもの実態把握をチームで取り組むことによる自立活動の指導の効果



【成果報告会 2年生】

成果報告会 教育実践開発コース（学部卒2年生）	
斎藤 僚人	主体的に課題をとらえ、他者と協働して課題を解決する力の育成 －学校・家庭・地域の連携・協働をふまえて－
中本 初季	教科等横断的な要素を取り入れた外国語の授業提案
藤野 真江	自己表現ができる子どもの育成
山本 拓実	小学校算数科における「つまづき」に着目した授業づくりの提案
渡部 咲果	国際理解の視点を取り入れた外国語教育の在り方
松村 悠	思考を共有する「数学的活動」
深川 修	対話を重視した ICT 活用における生徒の理解度向上 －中学校数学科および特別の教科道徳の授業実践を通じて－
西村 幸大	国語科における「言語感覚」を豊かにする授業提案
成果報告会 学校経営コース（現職教員2年生）	
中田 健一	生徒のキャリア発達を支える学校組織マネジメント －地域と連携した教育活動の実践を通して－
用殿 正和	阿武町「ONE TEAM」による教育の推進に向けた校種間連携の在り方
渡邊真弥子	つながりを生み出し学びを深める地域連携教育の在り方 －柳井市のスクール・コミュニティの可能性を探る－
宮内 朋子	学校・地域連携カリキュラムを通じた小中一貫教育の推進 －地域とともにある室積学園をめざして－
中本 隆之	マネジメント・マインドを高める次世代リーダーの育成 －学校・地域・行政のミドル世代協働チーム CRAFT の取組を通して－
廣田 恵子	「誰もが行きたくなる学校」に向けたマネジメント －それぞれのつながりを大切にした取組を通して－
松本 純治	学校・生徒・地域の連携・協働による成長し続ける学校 －「生徒あいキュービック委員会」が創る「自分ごと」の学校づくり、自分づくり－
成果報告会 特別支援教育コース（学部卒2年生・現職教員2年生）	
村上 遥	知的障害特別支援学校における外国語教育の可能性
河野 宏輝	公立小学校における学級規模ポジティブ行動支援の実践
島田 雅子	知的障害特別支援学校における連携・協働を軸としたキャリア教育



～教職大学院での1年間の学び～

【教職実践開発コース 1年生】

1年目の大学院生活を振り返って、大学院での講義、学校実習はもちろん先輩方や同期、他コースの現職の先生方などの関わりのなかで、学部生時代には得ることができなかった新たな学びを日々得ることができたと感じている。学校実習については新型コロナウイルスの影響で制限もあったが、実習校の先生方や大学院の先生方から授業実践についてのご指導をいただき、私の教員としての強みや課題を把握することができた。また、学校実習や大学院での講義を通して、自身の課題研究のテーマである運動の根源的な楽しさについても様々な視点から見つめ直ることができた。体育授業において子どもたちがより「楽しい」と感じるにはどうすればよいか。様々な視点から検討し、授業改善に努めてきた。そして、生徒指導では指導、手立て等を考えることは重要なことではあるが、それ以前にどのような信念をもって子どもに接していくかが大切であると学んだ。今後も理論と実践の往還を意識しながら日々学び続け、仲間とともに成長し続けたい。



【学校経営コース 1年生】

自分にとって、大きな転機となる一年間となった。教職大学院だからこその学びを通し、教育に対する見方や考え方が広がり自分自身を見つめ直すことができた。授業では、教育を多様な視点で捉えることで学校教育の重要性やその責任、課題について考えた。「なぜ？」の視点で今日の学校課題について議論をする中で、物事の仕組みや本質について理解を深めることができた。大学院では、大学の先生方や他校種の現職院生、他コースの学部卒院生など学校現場では関わる機会が少ない方と授業や生活の中で考えを交わすことができ、これまで気づくことがなかった新たな気づきを得る機会が多くある。学びに向かう姿勢や人間力向上の重要性を確認することができる人との出会いは、かけがえのない貴重な財産となった。残り一年だが、自分に与えられた使命を自覚し、この一年で獲得した学びや経験を学校現場により多く還元できるよう自ら積極的に学び、仲間とともに研鑽に努めたい。



【特別支援教育コース 1年生】

コロナウイルスの影響で、オンラインを利用した授業になることや、学校実習に行くことができない時期があった。しかし、その中で教師の負担になりにくい記録の取り方について考えたり、自閉症児の支援について学んだりすることができた。記録については、講義で取り方について主に学ぶことができ、中間発表会にて現場で活用できる記録について示唆を得ることができた。また、学校実習においては主に自閉症児の支援について学ぶことができコミュニケーションの取り方を実践することができた。大学院1年目の学びとして記録の取り方と自閉症児の支援について主に学ぶことができたため、今後は学校実習において記録や自閉症児の支援について実践をする中で、大学院の講義で学んだことを生かしていき、理論と実践の往還を図りたいと考える。そして、現場に出たときに教師の思い込みによる当てはめの支援ではなく、データに基づいた子ども達一人ひとりに合った支援が実践できるようにしていきたいと考える。



～教職大学院での2年間の学び～

【教育実践開発コース 2年生】

2年間の教職大学院生活の中では様々な学びを積み重ねることができた。特に実感した学びとして大学院の講義で学んだ理論を学校実習において実践化することができ、学校実習で経験した実践を大学院の講義で理論化することができたことである。例を挙げると、物事をポジティブに言い換えることができる「リフレーミング」を学校実習において子どもたちに実践できたり、校内研修やキャリア教育、生徒指導などの実習校の取組をまとめ、講義において発表や議論を通して校種や学校別の工夫や課題を顕在化し、学びを積み重ねたりすることができた。また研究を通して、子どもが数学的な見方・考え方を身に付けた姿をイメージした授業実践を行うことができた。学部生の時には教職大学院に進学するかどうか、非常に悩んだ。しかし、他の院生や大学、経営コース、実習校のなど様々な先生方に支えられた2年間は著しい成長を実感でき、かけがえのないものであった。進学して本当に良かったと感じている。2年間の積み重ねをこれから教育現場で実践することが非常に楽しみだ。



【学校経営コース 2年生】

教職大学院での学びの大きな魅力は、普段会わない異質な他者や事象と出会うことで、自分の価値観の前提を揺さぶり、新たな考えを得ることにあると言える。人、理論、言葉、出来事など、教職大学院での学びを通して出会った様々な異質が「新しい自己」を作り出した。異質との出会いは数々のセレンディピティ（予想外の事態での積極的な判断がもたらした、思いがけない幸運な結果）をもたらしてくれた。しかし、どんなにすばらしい出会いでも、自分がその意味を考え、気づかないとただの「風景」として通り過ぎてしまい、意味や価値が生じない。つまり、出会いそのものが意味や価値を生むのではなく、意味や価値は自ら作り出していく必要があるということである。このことは、学ぶことにも置き換えられる。何かを学ぶことの意味や価値は、自らが考え、見つけ出し、作り出し、自覚することが大切であり、そのことがこれからにつながっていくと考える。



【特別支援教育コース 2年生】

特別支援教育コースでの学びが終わろうとしている。2期生は3名(ストマス2名、現職1名)に人数が増え、日々の講義では活発な意見交換が行われてきた。この2年間では、応用行動分析学の基礎知識や応用方法等について学びを深めてきた。今後の学校現場には、不適切な行動を叱って減らすのではなく、望ましい行動を強化(ほめる・認める)して増やしていくという考え方を基にした支援や指導が必要である。また、支援による子どもの行動変容をデータとして記録し、支援の効果を可視化することが大切である。エビデンスに基づいた教育実践は、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実することにつながり、効果的な取組を他教員へと広げやすくなる。現在、障害の重度・重複化、多様化が進んでおり、特別な支援を必要とする子どもはあらゆる学校種で数多く在籍している。これからも教職大学院での学びを生かし、「今の子どもたちの幸せな暮らしのために」という目的を忘れず、子どもが学校生活の楽しさや成長する喜びを味わえるようなポジティブな支援を実践し続けたい。



令和3年度 教職実践高度化専攻（教育実践開発コース・学校経営コース・特別支援教育コース）の1年間

◎…原籍校や教育委員会での実践 ★…コース別研究会 ◇…試験関係

月	主な行事	教職実践高度化専攻			
		教育実践開発コース (学部卒)	学校経営コース (現職教員)	特別支援教育コース	
				(現職教員)	(学部卒)
4	・入学式 ・オリエンテーション 「大学院概要」「学校実習概要」	★オリエンテーション ◇教採対策勉強会	★オリエンテーション	★オリエンテーション	★オリエンテーション
5		★前期学校実習の進捗状況 ◇教採対策勉強会	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★学校組織を活性化するマネジメント	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★エビデンスに基づいた実践	★エビデンスに基づいた実践
6		★課題研究に関する情報交換			
7	・全員研究会 「田中博史先生の実践から学ぶ」	◇山口県教員採用試験(1次) ・くだまつワイライトセミナー (中止)	★実践研究に係る発表及び質疑応答 つば集中講義「学校組織マネジメント指導者養成研修」(オンライン)	★実践研究に係る発表及び質疑応答	★実践研究に係る発表及び質疑応答 ◇山口県教員採用試験(1次)
8		◇教採二次試験直前の個人面接演習 ◇山口県教員採用試験(2次) ・山口県地域連携教育推進協議会 (中止)	◎原籍校や教育委員会での実習中心	◎原籍校や教育委員会での実習中心	◇山口県教員採用試験(2次)
9				★実践研究に係る発表及び質疑応答	★実践研究に係る発表及び質疑応答
10		★後期学校実習に向けて	★教育行政インターンシップ報告会	◎特別支援教育の専門性向上に向けた実践 ★教育行政インターンシップ報告会	◎特別支援教育の専門性向上に 向けた実践
11	・教職実践高度化専攻入試	★課題研究の進捗状況	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★SDGsで学校経営! ～宇部市立上宇部中学校のご実践に学ぶ～	◎原籍校や教育委員会での実習中心	
12	・中間発表会・成果報告会リハーサル	★中間発表会・成果報告会に向けて	★実践報告 私の教職大学院での学びや歩みを振り返る	★実践研究に係る発表及び質疑応答	★実践研究に係る発表及び質疑応答
1	・実践研究中間発表会(M1) ・実践研究成果報告会(M2)				
2	・教職実践高度化専攻入試		◎原籍校や教育委員会での実習中心	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★実践研究に係る発表及び質疑応答	★実践研究に係る発表及び質疑応答
3	・修了式	★1年間・2年間の振り返り	★1年間・2年間の振り返り	★1年間・2年間の振り返り	★1年間・2年間の振り返り

学校実習

学校実習

学校実習